

終末期における歯科医療・ケアの意思決定に関わるチェック項目例

チェック項目	医療職による確認 本人・家族への質問・要望の確認	具体的対応
口腔内清掃状態 (良好・不良)	○	良好な口腔清掃状態の維持は、誤嚥性肺炎の予防になる。歯科医師・歯科衛生など専門家による口腔清掃を受けることで、その後の日常の歯垢除去が容易になり、しかも本人の爽快感は大きい。
口腔乾燥・口内炎・口臭の問題 (あり・なし)	○	口腔乾燥・口内炎が高度にみられると、口腔の運動が妨げられ、発音や摂食が困難になる。保湿を含めた口腔ケアは、会話を通じたコミュニケーションの維持と食べる機能の維持に有効である。口臭の問題は、近親者や友人とのコミュニケーションの妨げになる。
残存歯等による口唇や歯槽粘膜の裂傷、潰瘍 (あり・なし)	○	残存歯が口唇や歯槽粘膜の裂傷、潰瘍の原因になることがある。口腔内に保護床を作成するなど対応が可能である。
義歯の使用状況 (問題あり、問題なし)	○	無歯顎者の場合、義歯の装着が、下顔面の構成を維持する。また、前歯部がその人の表情に果たす役割は大きく、これらが損なわれると、尊厳ある顔貌が維持できない。その際には、義歯を新規に作らなくても、所有している義歯に少し手を入れることで、顔貌の回復を目的とした義歯として装着可能とできる場合が多い。
歯や口のなかで痛いところはありませんか？	○	
歯をみがくお手伝いをしましょうか？	○	
歯・口が原因で、食べることが不自由な点はありませんか？	○	
歯・口が原因で、話すことや外観で気になることはありませんか？	○	

終末期における “生きる力”を支える歯科医療

- いまある時間をどのように有意義に生きるか
- その人がその人らしい尊厳をもった生き方

“生きる力”を支える歯科医療とは、口腔に関する疼痛や不快症状を軽減し、最期まで口から食べることを支援し、口腔機能の低下に起因する肺炎等の全身疾患を予防し、元気なときの会話、顔貌・表情を維持するための医療である。

終末期における 医科と歯科の連携

Terminal Dentistry

M.T 74Y

肺癌 terminal stage
骨盤, 左大腿骨転移



経過

H13.8.6 T内科医院より紹介.

H13.8.8 気管支鏡にて腫瘍を確認. 右腸骨と左大腿骨に転移を認め手術不能と判断.

H13.8.28 全身化学療法開始、10.9退院.

H14.3頃 左大腿部に痛みが出現し、放射線療法施行. 症状改善したが歩行困難になる.

H14.4 要介護認定（要介護1） ケアマネ：三豊総合病院居宅介護支援事業所

H14.8 訪問看護：2/W 訪問診察（内科）：1/W

H14.10.4 食思低下によりエンシュアリキッド処方、寝のみで少量づつ頻回に摂取.

口腔内が不潔になっているが舌保清時に痛みがあるため、訪問看護ステーションより紹介.

H14.10.10 訪問歯科訪問 口腔ケア施行

H14.10.14 死亡（口腔内は非常にきれいな状態で最期を迎えられ家族には感謝される）

口腔内

経腸栄養剤(エンシュアリキッド)が多量に舌や口蓋に付着していた

